

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

誠之中学校区	校番37	福山市立 曙 小学校
最終更新日	2025年(令和7年)4月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 コロナ禍により、社会情勢や生活環境、子どもたちの生活・意欲・様々なことが大きく変化してきている。 子どもたちの目線、目標・計画等を設定してほしい。 未来を見つけられる学びとなしてほしい。	児童生徒の現状 ・地域から学び、理解し、つながろうとしている子どもが増えている。 ・相手意識を持った行動が不十分。 ・学びへの意欲が低い児童・生徒が一定数いる。 ・長欠児童生徒の割合が高い。	育成する力 資質・能力	主体性			
		知識・技能	思考力・判断力	表現力	自主・共生	
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒			
		中学校区として統一した取組等	研究主題 : 自ら考え学ぶ教育活動の創造 校区共通のSDGs : 1 1 住み続けられるまちづくり			

III 自校

ミッション ㊦ ㊧ ㊨  
 ㊦リエイティブ(突破力・発想力)で㊧ンダフル(不思議がいっぱいで素晴らしい)な児童の育成の図るため、㊨ノベーション(授業改善)の推進

学校教育目標  
 夢と希望を燃やし続ける曙っ子の育成

現 状  
 <児童生徒>  
 ・児童は学びに向かっているが、基礎学力を身につけ学力を伸ばしていくことに課題がある。  
 ・担任・関係職員の支援・協働により、連続欠席が改善傾向の児童が見受けられる児童もいるが、学校・教室で、自ら学んだり、学び合ったりすることが不十分な児童が少なからずいる。30日以上長期欠席者数は34名、その内、新規欠席者は17名であった。  
 ・体力テストにおいては、向上している項目もあるが、継続して課題となっている項目も見られる。  
 <授業>  
 ・主体的・対話的な学びのデザインによる授業づくりにより、子どもたちは「授業は、自分に合った教え方、教材になっている」と、概ね好意的に捉えている。  
 ・単元の本質追求に向けて、他者の考えと自分の考えを比較しながら話し合うなど、学びを広げ・深める単元構想・授業展開・評価に課題がある。

育成する力 資質・能力	主体性 知識・技能、思考力・判断力、表現力、自立・共生					
めざす子ども像	めざす子ども像	主体性				
		育成する力 資質・能力	知識・理解	思考力・判断力	表現力	自立・共生
		低学年	知りたい情報を人に聞く・本で調べるなどして収集することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較すること等を通して、課題を解決することができる。	自分の考えや意見を、わかりやすく伝えることができる。	自分の考えを持つことができる。 進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。
		中学年	目的に応じて情報を工夫して収集し、情報を選んで、活用することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。	自分の考えや意見を、三角ロジックを活用してわかりやすく伝えることができる。	自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現することができる。
高学年	多様な視点から情報を収集し、情報を選んで、経験・知識と結びつけて活用することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較・関係付け・分類すること等を通して、協働して課題を解決することができる。	相手や目的に応じて自分の考えや意見を三角ロジックを活用して説明することができるように伝えることができる。	自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。 進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。		

研究	テーマ	「自ら問いや考えをもち、伝え合いながら、学び続ける授業づくり」 ～学びに夢中になる子どもをめざして～
	内容等	① 各授業者が、「追求教科・単元」を選び、「子ども主体の学びづくり」にチャレンジする。 ② 校内・チーム体制を整え、「見通し」と「見取り」の精度を高め、研究・研修の充実を図る。
めざす授業の姿	全ての子どもたちが、日々の授業で ・自ら問い(なぜ・どうして?)を持ち、(つなげて)考えている ・目的を明確にして、伝え合ったり聴き合ったりしながら、広げたり深めたりしている ・自らの学びに(見通しを立てたり、振り返ったりしながら)粘り強く学んでいる ・自分やグループの考えをICTやシンキングツール等を活用してまとめたり、対話したりしている	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 曙 小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
2	確かな学力の向上	★	継続	子ども主体の学びづくりを進め、学力を伸ばす	つきたい力を明確にした単元計画を立て、根拠を明確にした評価の実施をする。  深い単元解釈・分析に基づく単元構成・授業展開の工夫・改善を図り、PDCAサイクルを回す。	国語科テストの思考に置いて、平均80点以上にする。  「児童のつまずきを想定しながら教材研究・授業準備を行っている」教職員を80%以上にする。 (教職員アンケート)							
2	豊かな心の育成		継続	多様な他者とかかわり合いながら共感的人間関係を築く  不登校の未然防止を図る	日々の学級活動(朝・帰りの会、給食等)と、学活・道徳・行事を関連づける。(振り返り等の活用)  ①不登校要因の把握・分析 ②要因解消のための手立て立案・分析 ③取組の評価と改善 ②③について、今までの慣例にしばられない。	「自分の良さは周りの人たちから認められている(自己肯定感)」児童を80%以上にする。(児童アンケート)  不登校児童を15名以下にする。 (昨年度17名)							

2	教職員が元気で働きやすい学校づくり	継続	教職員のやりがいの向上  授業づくり等、児童に向き合う時間の確保	校内研修等を通して、教職員が自らの持ち味を生かした取組を進める。  ・積極的な生徒指導の推進 ・児童、保護者との確かな人間関係の構築 ・主任層を核とした人材育成	「授業づくりなど学校内の活動で、失敗を恐れずに挑戦できる」教職員を80%以上にする。  「授業づくりを行う時間が確保されると感じる」教職員を80%以上にする。 (教職員アンケート)					
---	-------------------	----	--	--	---	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。